

転ばぬ先の杖、安全第一

中国農業大学学生代表

見学日時：2016年12月2日（金）14:00-15:30

見学場所：三菱東京UFJ銀行

見学概要

12月2日、銀座にて本格的な和食ランチを堪能した後、「走近日企・感受日本」訪日交流団一行は三菱東京UFJ銀行を訪れ、銀行スタッフによる紹介や貸金庫の見学などを通じて日本でトップ、世界でも4番目に大きな同銀行について、知覚的な認識と理解を得ることができた。

まず初めに、三菱東京UFJ銀行東アジア企画部の長谷川部長から同銀行の組織構造から支店ネットワークに至るまで詳細な紹介があり、その中でも支店ネットワークのお話の際に、同銀行が1980年に北京代表処(中国初の外資系銀行代表処)を設立してから現在に至るまで中国本土において20の営業拠点を有しているといった中国における発展の歴史について重点的な紹介があった。この他、長谷川部長は学生時代単独で一ヶ月の時間をかけてヨーロッパを歴訪し自身の国際的な視野を広げ、後に国際金融に関する仕事に就くことを決心したとのことで、私たちにも若いうちに「走近日企・感受日本」のような活動に多く参加し、国際的な視野を広げて欲しい旨のお話があった。



紹介の後の質疑応答では、中国の支付宝(ALIPAY)を代表とするオンライン決済サービスが従来の銀行業に与える影響について質問があり、同銀行のスタッフからは、中国におけるオンライン決済サービスは日本より進んでいる部分もあり、これは中国の巨大な市場に関係すると同時に、中国国内における従来の決済方式が不便であることにも関係している。オンラインと銀行が共に作用し合うことで中国国内におけるオンライン決済サービスはさらに繁栄する。三菱東京UFJ銀行としても、早期にこうしたサービスを安全に提供できる様関連分野の研究を行っている、といった率直な回答があった。それと同時に、中国では現在オンライン決済サービスが広く普及しているが、未だ多くの潜在的リスクが存在していることを懸念しており、中国のように先にサービスを開始し問題を発見してからそれを解決するのは違い、日本人はこうした潜在的リスクの解決方法を確立してからサービスを提供するのをより好む傾向にあるといったお話を聞くことができた。



その後、私たちは貸金庫を見学した。私たちのスケジュール表には「金庫」と書かれていたため、当初は何重もの扉を開けた後に部屋いっぱいの黄金やお札といった光景を想像していたが、その後日本語の「金庫」はセーフティーボックスを意味していると知った。厳重な警備、厚い扉、何重ものセキュリティ、それと同時に金庫利用者のために、銀行スタッフも見ることの出来ない、プライバシーを守る単独スペースが準備され、「安全」と「プライバシー」を極限まで高めている。

貸金庫業務の見学の後、銀行は業務終了時刻であったが一部の預金者の業務が終わっていなかったため、当初予定していた銀行内部の見学は残念ながら取り止めとなった。

知っていますか？

問：三菱東京UFJ銀行の前身を知っていますか？

答：2005年2月18日、三菱東京フィナンシャル・グループとUFJホールディングスの責任者が東京での記者会見の席上握手を交わした。両社は総額3.99兆円(380億ドル相当)規模の統合契約締結を発表し、新たな商号を「三菱UFJフィナンシャル・グループ」とした。

感想

今回の活動において、私たちは初めて預金者の立場としてではなく銀行に足を踏み入れ、三菱東京UFJ銀行の組織構造や日常の運営の様子について知ることができた。中国のオンライン決済サービスに話が及んだ際の、銀行スタッフによる中国と日本における物事の処理のスタイルの違いについての比較はとても印象深かった。中国はまず行動し、問題が発生してから解決する。これはより起業に向いている。日本は行動する前に、起こり得る問題を考え、それに対する解決方法を確立してから普及や行動を始める。これはより成果の維持に向いている。前者はよりチャンスを探ることができるが、予期しない問題が発生し致命的な結果を招くこともある。後者は堅実だが、チャンスを見逃す可能性も存在する。日本は比較的早期に発展し、現在では非常に高いレベルの発展を遂げているため、よりその維持が必要である。対して中国は、発展が遅れ、基盤も弱いだが、潜在力は大きいため、古いものを打ち破らなければ新しいものは打ち立てられないという起業の姿勢がより必要である。中国としては、前進をすると同時に日本人のような潜在的リスクへの予測や対策を学んでこそ、私たちが切り開く道はよりスムーズになるであろう。